ハンドブック配布による小児患者保護者の不安軽減への取り組み

足立　佳子[1]　三枝　絢子[1]　宮本　恵里[2]　門脇ふみ子[3]　鵜野　正美[4]
1　総合メディカル（株）　茨木さくら薬局
2　そうごう薬局　阿倍野店　3そうごう薬局　寝屋川店
4そうごう薬局あべのベルタ店

【目的】
小児患者の保護者において、服薬方法など服薬指導時には理解したが、帰宅後に不安を感じるケースがある。そのため、小児科や耳鼻科の処方を多く応需する薬局では電話での問い合わせが多く見られる。そこで服薬方法の工夫や小児に多い病気の予防法や対処方法など有益と考えられる情報を予め保護者に提供する事によって、自宅での小児患者の保護者特有の不安や疑問を軽減できないかと考え、取り組みを行なったので報告する。
【方法】保護者から過去に受けた質問より薬局薬剤師の視点で有益と考えられる情報「病気 5 項目、内服薬 10 項目、外用薬 6 項目」を抽出し、お薬手帳サイズのハンドブックを作成した。来局時に保護者に配布し、内容を確認いただいた後、アンケートを実施した。実施期間は 1 ケ月とし、期間中に来局した小児患者の保護者を対象とした。そしてハンドブック配布後 1 ヶ月間の薬局への電話による問い合わせ件数と内容を検証した。
【結果】ハンドブックを配布した保護者 241 名からアンケートを回収した。ハンドブッの有用性に関する項目は「何に混ぜたら飲みやすくなるか」が 28%、次いで「病気の疑問が 23%、「外用薬の使い方」が 16%となり、冊子として手元にあるとありがたいなどの意見見られた。普段困っている項目は「病気になった時の生活の仕方」が 34%と最も多かった電話による問い合わせ件数は減少傾向となった。
【考察】服薬方法の工夫や小児に多い病気の予防法や対処方法などを保護者が自宅で再確認用に使用できること、また保護者からの薬局への電話による問い合わせ内容においてハンドブックに記載されている服薬方法などが減少し体調変化などが主になっていることから、ハンドブックが小児患者の保護者特有の不安や疑問の軽減に役立ったと考えられる。